

みんなで人権^{じんけん}を考える「つなぐ」 TUNAGU II

そのだ ひさこ

「TUNAGU II」とは

人と人、心と心をつなぐ、世界とつなぐ一人権尊重のまちづくりの一環として、さまざまな人権問題について市民の皆さんと共に考えます。

あなたは、どうするの？

すでに1年以上、新型コロナウイルスに翻ろうされ、世界は百年に一度ともいわれる未曾有の危機にある。コロナのまん延は、人々の生活すべてを脅かしつづけている。こんな中で生活困窮者も増え、詐欺の増加をはじめ、給付金などの不正受給の問題なども起きてきている。さらに、ストレスがジリジリと慢性的に襲ってくる中で、家庭内での暴力(DV)や幼児虐待も増加している。コロナ感染者やその家族、医療従事者などへの差別・排除や風評被害などもゆゆしい問題である。

そんな中でも、コロナだけではなく、地球の気候変動とそれによる災害も頻発して起きている。自然の猛威は容赦なく、人間社会を襲いつづけている。豪雨、豪雪、猛暑、氷河が解けての突然の洪水…自然は〈荒れ〉ている。そんなとき、福島第一原子力発電所の事故のなかで踏ん張った約50人の作業員をテーマにした映画『Fukushima50』のシーンがよみがえった。事故の後、「俺たちは自然をなめていたんだ」「自然を支配したつもりになっていた。慢心だ」⁽¹⁾。皆を避難させ、死を覚悟して最後に残った約50人のなかの所長さんの言葉である。彼は実在した方で、その2年後、が

んで亡くなられた。

なぜ、このような社会になったのだろうか。私は、何十回、何百回こう問いつづけてきた。私は今まで人権の講演や講義の始まりに「人はいじめも差別も命をうばうこともする」と言いつづけてきた。それは、きれいな事だけは止めよう！ということと、そうならない力、知り、考え、自ら判断する力を身につけるためである。人は本当にもろく、弱く、どんなにも心貧しく、醜くもなる。けれど、人は心底から心豊かに、優しく、誇らしくもなれる生きものである。そのためには、人間には〈学び〉が不可欠なのだ。毎日、学び続けている子どもだけでなく、私たち全ての大人も、考える力、意見を表明する力を発揮することが大切ではないのか。今一番不可欠なのは、さまざまな知識や情報を正しく身につけたうえで、「あなたはどうか考えるの、どうするの！」という〈自分への問いかけ〉である。自分の命や生活を守るの自分自身であるのだから。

(1) 若松節朗(監督)、2020、

『Fukushima50』

配給：松竹 KADOKAWA

問 教育政策課

互^{たが}いの優^{やさ}しさを…

虐待やDVは、人の尊厳を踏みこじるもので、命に関わる問題です。法や条例でも、その防止が呼びかけられています。

【児童や高齢者の虐待防止法】
親による体罰の禁止、虐待やDVを発見した際の報告の義務などが明記されています。

【筑紫野市子ども条例】
子どもたちの生きる権利やいじめや差別・暴力から守られる権利を尊重することや、社会全体で次世代を担う子どもたちを育てていくことが明記されています。

混沌とした時代だからこそ、互いの優しさ・あたたかさを発揮し、安心・安全の地域づくりをしていきたいものですね。

筑紫野市人権尊重の
まちづくりスローガン

自分が人からされたり、
言われたりして、
いやなことは、
自分は人にしない、言わない

平成29年度筑紫野市総合教育会議にて、子どもにも大人にも理解でき、実践に移せるスローガンとして決議されました。